



企画委員会

3Rイニシアティブについて考えてみませんか

廃棄物学会では、毎年、廃棄物問題に関して注目されるテーマを取り上げ、技術セミナーやシンポジウムを開催しています。今年は、4 月に 3R イニシアティブ閣僚会合が開催されるなど、国内外で循環型社会の形成に向けた取り組みへの関心が高まっています。そこで、今年は 3R イニシアティブをテーマとした技術セミナーとシンポジウムを下記のとおり、開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしております。

廃棄物学会員のための技術セミナー

平成 17 年 10 月 7 日開催

ー資源化施設の最前線を見学しませんかー

技術セミナーでは、3R の中で、廃棄物のリサイクル施設に着目します。産業廃棄物の中でも廃プラスチックは、最近の原油高騰の影響からオイル燃料の代替材として活用が目され、固形燃料化 (RPF) 施設が各地に建設されています。また、家電リサイクル法の施行に伴って稼動しているリサイクル施設では、家庭等から回収された廃家電製品のリサイクルされる状況がより具体的に実感できます。

技術セミナーでは、循環型社会のホットな話題提供として、これらのリサイクル施設の見学を企画します。

- ◆開催日時：平成 17 年 10 月 7 日 (金) 12:00～17:30
- ◆集合場所：東京駅集合・解散 (バスで移動します)
- ◆見学先：1) 廃プラスチックの固形燃料化施設：
株式会社川環エンジニアリング行徳工場
(千葉県市川市行徳)

- 2) 廃家電製品のリサイクル施設：
㈱ハイパーサイクルシステムズ
(千葉県市川市東浜)

- ◆定員：80 名
- ◆参加費：10,000 円 (当日申し受けます)
- ◆申込方法：①氏名、②所属、③連絡先、④電話番号、⑤FAX 番号、⑥参加人数をご記入の上、廃棄物学会事務局まで FAX にてお申込ください。
- ◆募集期間：平成 17 年 9 月 1 日～9 月 30 日
- ◆申込後のご案内：申込み締切後、参加者には、集合場所等を FAX で連絡します。
- ◆問合せ先：廃棄物学会事務局
TEL 03-3769-5099 FAX 03-3769-1492
企画委員会担当者
柳瀬 (福岡大学) TEL 092-863-8238
大澤 (川崎市役所) TEL 044-200-2558

廃棄物学会主催シンポジウム

平成 17 年 12 月 1 日開催

国際資源循環の現状と展望

3R イニシアティブ閣僚会合の開催等、国際的な循環型社会形成への取り組みに関心が高まっていることから、国際資源循環をテーマとしたシンポジウムを開催いたします。

5 月の研究討論会では「3R イニシアティブ後のアジアと日本」というテーマで研究発表や政策についての討論が行われましたが、本シンポジウムでは、実際に「リサイクル貿易」に従事している企業の方をパネリストに迎えて、現場の実態から国際資源循環のあり方を考えたいと思います。

- ◆テーマ：「国際資源循環の現状と展望」
- コーディネータ：藤井美文氏 (文教大学教授)
- パネリスト：
中野聰恭氏 (日本繊維屑輸出組合理事、ナカノ㈱代表取締役社長)
- 瀧本義継氏 (関東製紙原料直納商工組合理事、㈱富澤代表取締役社長)
- 中島賢一氏 ((社) 日本鉄リサイクル工業会環境対策委員長、㈱リーテム代表取締役社長)
- 小島道一氏 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)

- ◆開催日時：平成 17 年 12 月 1 日 (木)
13:30～17:00 (開場・受付開始 13:00)
- ◆開催場所：幕張メッセ国際会議場 301 会議室
- ◆参加費：会 員 3,150 円、学生会員 1,050 円、
非会員 5,250 円
- ◆申込方法：下記まで直接申込みください。
日本廃棄物会議実行委員会事務局
〒104-0045 東京都中央区銀座 3-15-8 エッグビル 3 階
国際コンベンション㈱内 担当：岡田
TEL：03-5565-0531、FAX：03-5565-9550

(※このシンポジウムはウエステック (廃棄物処理・再資源化展) の関連催事である「日本廃棄物会議」のプログラムとしても位置づけられています。)

「三重RDF製造・発電・灰洗浄施設見学会」開催報告

平成17年7月19日に、東海・北陸支部主催の見学会が開催された。見学会は支部行事の中でも好評な行事で、参加者が50名を越える盛況であった。

RDFの製造から発電、飛灰の処理までの一連の流れを見学するため、桑名広域清掃事業組合と隣接するごみ固形燃料発電所の他、バスで30分程の距離にある太平洋セメント藤原工場内に設置されている灰洗浄施設を回る強行軍となった。そのため、本来なら会場で上映されるRDF発電所の概要説明ビデオを、バスの中で上映し、見学会に臨んだ。

会場では、支部長挨拶、発電所長挨拶の後、三重県環境森林部からごみ行政について、桑名広域清掃事業組合からRDF製造およびリサイクル工場の説明、三重県企業庁の発電システムの説明が行われた。その中で、15年8月の爆発・火災事故およびその後の安全対策について詳細な説明が行われ、住民説明会資料も配付された。

その後、発電施設、旧貯蔵タンク跡やRDF製造・リサイクル工場を見て回った。概要説明と現場見学を熱心に行ったため、質疑応答の時間がなくなってしまった。急遽、企業庁の職員にバスに同乗していただき、

次の見学地である灰洗浄施設までの移動時間に、質疑応答を実施した。質疑応答では、専門性の高い高度な質問には、見学者として同乗していた発電所の安全管理会議・技術部会委員の藤間先生が、回答する場面もあった。

灰洗浄施設も太平洋セメントの就業時間を過ぎての見学になってしまったが、丁寧な現場説明をしていただき、灰がセメントとしてリサイクルされている様子がよく理解できた。（東海・北陸支部 稲垣順一 記）



▲ 見学会の様子

平成17年度廃棄物学会賞候補者募集

廃棄物学会表彰規定に基づき、平成17年度廃棄物学会賞の推薦募集をいたします。下記要項により、奮って推薦応募されますようお願いいたします。

推薦要項

1. 表彰の種別：
 - 1) 廃棄物学会大賞
廃棄物学の進歩、廃棄物事業の発展に貢献し、顕著な功績があった者
 - 2) 廃棄物学会功績賞
本会の運営に顕著な功績があった者
 - 3) 廃棄物学会有功賞
廃棄物学に係わる顕著な社会的貢献があった者
 - 4) 廃棄物学会論文賞
廃棄物学において、独創的な研究開発ならびに技術に関する論文の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者
 - 5) 廃棄物学会著作賞
廃棄物学に関する著作の発表により、当該学術・技術の進歩発展に顕著な功績があった者
 - 6) 廃棄物学会奨励賞
廃棄物学のうち、限定された範囲項目についての独創的な学術・技術・製品などで画期的な業績をあげた者
2. 受賞候補者の資格：廃棄物学会賞受賞候補対象者は、個人又はグループ及び団体とする。個人の場

合は原則として本会会員とし、グループ（5名以内）の場合は、グループの中に本会正会員が1名以上参加し、対象業績に主要な役割を果たしていること。また、団体は原則として、本会の公益会員及び賛助会員とする。

3. 候補の範囲：表彰種別のうち廃棄物学会論文賞、同著作賞および同奨励賞については、受賞候補年度よりさかのぼり、原則として2年以内に功績又は業績をあげた者とする。廃棄物学会大賞と同功績賞及び同有功賞については期間に制約をおかない。
4. 推薦の制約：同一の候補者に対して、同一の推薦者が、2つ以上の賞の候補として推薦することは認めない。
5. 応募方法：本会正会員3名の推薦によるものとする。
6. 表彰の方法：表彰審査委員会慎重に審査の上、入賞者には表彰状および記念品を贈呈する。
7. 表彰の時期：表彰は平成18年度廃棄物学会定期総会において行う。
8. 提出書類：申請には本会所定の廃棄物学会賞推薦書様式に従って必要事項を記載し、1件につき正1通、副2通（コピーで可）の計3通を提出する。
9. 提出締切日：平成17年11月30日（水）必着
10. 推薦書の請求・提出・問合せ先：

廃棄物学会事務局 表彰担当

【お知らせ】

故田中信壽先生を偲ぶ会

主 催：廃棄物学会
開催日時：平成 17 年 9 月 6 日(火)
追悼会 15:00～16:00 追悼懇親会 16:00～18:00
開催場所：学士会館（東京都千代田区）
参 加 費：5,000 円（当日会場にて申し受けます）
事前の申込は不要です。
問 合 先：廃棄物学会事務局 TEL 03-3769-5099

故藤本忠生副会長を偲ぶ会

主 催：廃棄物学会関西支部
開催日時：平成 17 年 10 月 6 日(木)18:00～21:00
開催場所：大阪弥生会館（大阪市北区）
参 加 費：5,000 円（当日会場にて申し受けます）
事前の申込は不要です。
問 合 先：廃棄物研究財団大阪研究所気付 藤川、木川
TEL 06-6771-3391

水産ゼロエミッション研究会主催

第 4 回水産ゼロエミッション研究会・発表会

開催日時：平成 17 年 11 月 18 日(金)9:30～19:30
開催場所：東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区）
締 切：参加および研究発表申込み 平成 17 年 9 月 15 日
研究発表要旨提出 平成 17 年 9 月 30 日
参 加 費：研究発表会 1,000 円、懇親会 2,000 円
＊申込みの詳細等は下記までお問い合わせください。
問 合 先：水産ゼロエミッション研究会事務局 難波秀博
TEL 0479-22-7556 FAX 0479-22-3538
E-MAIL shida_qr@choshinet.or.jp

平成 17 年度会費納入のお願い

平成 17 年度の会費につきまして、正会員・学生会員の方には郵便払込取扱票を、公益会員・賛助会員のご担当者には請求書を送付させて頂いております。未納の方は、早急に納入下さいますようお願いいたします。なお、**本年度は次期（第 9 期）役員候補選挙が実施されます。正会員の方で、9 月末日までに会費未納の方は、選挙権、被選挙権が失われます。**十分ご注意ください。

会 員 状 況	
	H17. 7. 29 現在 () 内は、H17. 4. 1 以降の増減
正 会 員	3,418 (-15)
学生会員	345 (39)
外国人会員(DM)	25 (3)
登録団体市民会員	4 (1)
公益会員	111 (2)
賛助会員	173 (-2)
計	4,076 (28)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 88 平成 17 年 8 月 25 日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

R100

印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています
<http://www.jswme.gr.jp>

JSWME Newsletter No.53 (July)

発行のお知らせ

英文ニューズレター第 53 号が発行されました。
※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会 HP から入手できます。
(主要目次)
Mottai-Nai を世界へ：3R イニシアティブ閣僚会議の概要
廃棄物分野の ODA：プノンペン市（カンボジア）における
SWM 調査
日韓交流事業：韓国廃棄物学会研究発表会への参加報告

The contents of No.53

- 1 Dear Waste Management Experts
- 2 Ministerial Conference on the 3R Initiative was Successfully Held to Share the Spirit of Mottai-Nai all over the World
- 3 Japan's ODA on SWM:
The Study on SWM in the Municipality of Phnom Penh, Cambodia
- 4 Report on the Research Conference of the Korea Solid Waste Engineering Society
- 5 Contents of Journal of the JSWME, Vol.16, No.3
- 6 Cartoon by High Moon:
"Don't you have anything a little more compact?"

☆☆事務局だより☆☆

昨年同様、今年も猛暑が続きます。体調はいかがですか。外の暑さで汗にぬれた体を冷房の効いた室内で冷やし、風邪をひいてしまいました。

最近、アスベストを扱っていた作業員から、中皮腫、肺がん、じん肺などの健康被害が起き、多数の死者が出ていると新聞等を騒がせています。アスベストは石綿と呼ばれる天然の繊維状鉱物で、断熱性、耐火性、吸音性などに優れ、保温材、断熱材、防音材など、建築物や設備工事に多く使われてきました。しかし、形状は非常に細く、目に見えない位の大きさを浮遊し、肺に吸入されても分解されず、20 年以上経ってから肺がんや悪性中皮腫などの健康被害を引き起こすと指摘されています。欧米では「静かな時限爆弾」と呼ばれ、早くから使用が禁止されているとのこと。日本では、保温、断熱目的でアスベストを吹き付ける作業は原則禁止されていますが、アスベストを含む建築材として、スレート屋根材、サイディング板、P タイルなどが、一般家屋を含め多くの建築物に使われており、アスベストを含まない建材を探すのが難しいくらいようです。政府では今回の問題を契機に、アスベスト使用の全面禁止を、当初 2008 年としていたものを前倒しする方針が出ているようです。アスベストは、特別管理産業廃棄物として収集、運搬、処分等の基準が定められ、適正に処理することになっています。今後これら建築物が解体され、アスベストを含む建材が廃棄物として多量に排出されることが予想されるので、作業員はもちろん周辺の住民にも被害が及ばないよう十分な対策が必要となります。

P C B、ダイオキシンに次ぎ、また大きな問題が出てきたようです。
(鈴木明郎 記)

次号(学会ニュース No. 89)は 10 月 14 日発行予定です。